

環境報告書 2017



原田工業株式会社

HARADA

企業ポリシー

1. 会社紹介 P-2
2. 経営理念 P-3
3. 原田グループ 環境方針 P-3
 - 1) 環境理念
 - 2) 環境基本方針
 - 3) 環境保全活動の運用

環境へのビジョン

4. 環境マネジメント P-4
 - 1) 組織体制
 - 2) ISO14001取得状況
5. 環境リスクアセスメント P-4
 - 1) 環境関連法規制の順守
 - 2) 地球環境に優しい製品づくり
6. 3Rによる取組み活動 P-5

環境貢献活動

7. 環境貢献活動 P-5
 - 1) 環境教育
 - 2) 活動実績の共有化
 - 3) 小冊子の携帯
 - 4) 環境月間・節電ビズ・クールビズの対応
8. 2016年度 本社環境貢献活動結果報告 P-6

環境データ

9. 投入量・排出量年度推移データ P-7
 - 1) 投入量
 - 2) 排出量

環境活動計画

10. 2017年度活動テーマ P-8
環境活動(本社)
11. 環境管理責任者メッセージ(今後の環境貢献活動取組みの姿勢について)

会社紹介 **HARADA**

通信の未来をデザインする

無数の電波が飛び交う世界で、私たちは風のように情報をキャッチし、メッセージを空に放ちます。ダイナミックな進化を続けるモバイルコミュニケーション。その先端にHARADAがいます。



本社エントラン

HARADAのアンテナメーカーとしての始まりは1957年。車載用ラジオ受信アンテナである「ロックアンテナ」の開発に成功し、自動車の純正部品として採用されたのを契機に、今や国内外の自動車メーカーのOEM供給で高いシェアを誇るトップクラスのアンテナメーカーへと発展しました。



大型電波暗室

私たちの名前が人々の目に直接ふれる機会はありません。世界を代表するアンテナメーカーであり続けること。それは言い換えれば、通信の未来を自らデザインし、かつ最高の品質でお客様へ提供することへの、終わりなき挑戦でもあるのです。

HARADA製品の一例



車載ラジオ用アンテナ



車載テレマチックス用アンテナ



アンテナハーネス



地上デジタルTV用
フィルムアンテナ



ETCアンテナ



シャークフィンアンテナ(衛星・ラジオ複合)

2. 経営理念

共創と革新

HARADAはベストを追求する
プロフェッショナル集団であり続けます。

3. 原田グループ 環境方針

(1)環境基本姿勢

環境問題はもはや国家レベルの問題ではなく、地球規模で解決を図るべき問題になっています。フランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)では、京都議定書に代わる温室効果ガス削減のための新たな国際枠組みとして、パリ協定が採択され環境保全の継続的な取り組みが地球規模で行われています。

当社は自動車部品の製造・販売を事業活動の中心にしていますが、最先端技術を要する分野に関わるメーカーとして、快適な生活および健全で豊かな社会環境づくりに貢献していきます。

当社製品については環境負荷物質の抑制を図り、小型化による省資源などに配慮する設計により循環型社会へ貢献できるものを市場に提供していきます。

また、当社は国内を含む海外各地に生産拠点を有していますが、全工場ISO14001環境マネジメントシステムの認証取得をしており、生産活動においても地域環境の環境保全に大きく寄与しております。

(2)環境基本理念

原田工業株式会社は自動車用部品の製造、販売会社として自然環境との調和を企業経営の基本とし、企業活動を通じて健全で豊かな社会づくりに貢献します。

(3)環境基本方針

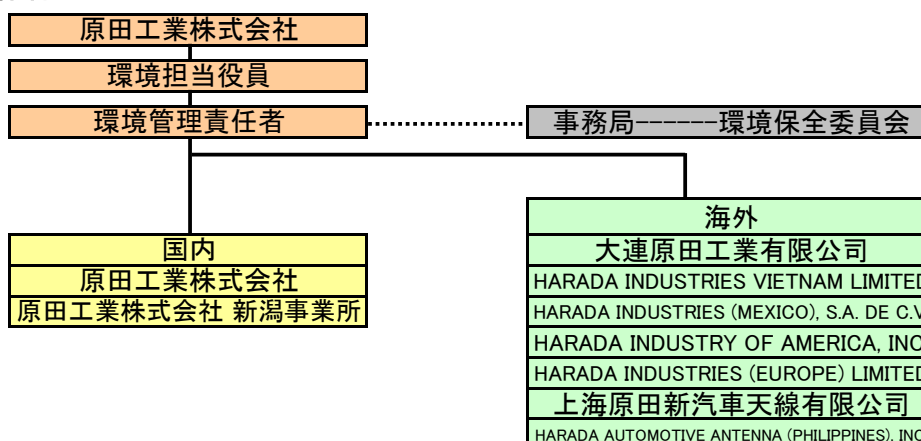
- (1) 再資源化、再利用、省資源、軽量化を行動指針とし、資源抑制、廃棄物削減、グリーン購入に努めます。
- (2) 経営方針に則り地球環境保護に関連した環境保全活動テーマを設定し、企業経営への反映を実践すると共に、生物多様性及び生態系保護に関する共通認識の向上に努めます。
- (3) 環境負荷低減に貢献できる顧客・市場ニーズ製品の開発に努め、社会に提供しつづけます。
- (4) 環境関連法規制・取引先要求を確実に順守する為の組織的な対応に取り組むと共に環境汚染の防止に努め、有害化学物質の管理、使用の抑制、代替を積極的に進めます。
- (5) 環境方針に沿って目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの運用を行なうとともに活動に対する定期的な見直しを行い、継続的改善を図ります。
- (6) 環境方針を全従業員に周知徹底し、環境保全に関する理解と意識を高めます。
- (7) 原田工業株式会社は環境方針を一般に公表します。

2017年5月1日

原田工業株式会社
取締役 上山 智

4. 環境マネジメント

1) 取組み体制



2) ISO14001 認証取得状況

当社は2000年4月、HARADA INDUSTRIES (EUROPE) LIMITEDにてISO14001認証を取得後、2002年4月までに下記の関連会社でISO14001の認証を取得しております。

関係会社	認証機関	認証取得
原田工業株式会社	JSA	2001年 8月
原田工業株式会社 新潟事業所	JQA	2001年 4月
大連原田工業有限公司	BV	2001年 4月
HARADA INDUSTRIES VIETNAM LIMITED	BV	2002年 4月
HARADA INDUSTRIES (MEXICO), S.A. DE C.V.	SAI GLOBAL	2002年 3月
HARADA INDUSTRY OF AMERICA, INC.	SAI GLOBAL	2001年 11月
HARADA INDUSTRIES (EUROPE) LIMITED	BSI	2000年 4月
上海原田新汽車天線有限公司	SGS	2005年 11月
HARADA AUTOMOTIVE ANTENNA (PHILIPPINES), INC.	SGS	2000年 10月

各社認証書（内容詳細は各社認証書フォルダにて確認することができます。）



5. 環境リスクアセスメント

1) 環境関連法規制の順守

日本や世界各国で、環境関連法規制が施行され、お客様の事業活動にも深く関わっております。原田グループも環境法規制を順守の上、グローバルな管理体制を構築し環境貢献活動を推進しています。

2) 地球環境に優しい製品づくり

海外を含む生産工場では、環境負荷物質の低減、有害物質の使用削減と廃絶につとめ、地球環境に優しい製品づくりを行っています。

・鉛フリーはんだへの切替推進



鉛フリーはんだリフローライン

・ハロゲンフリー化の推進

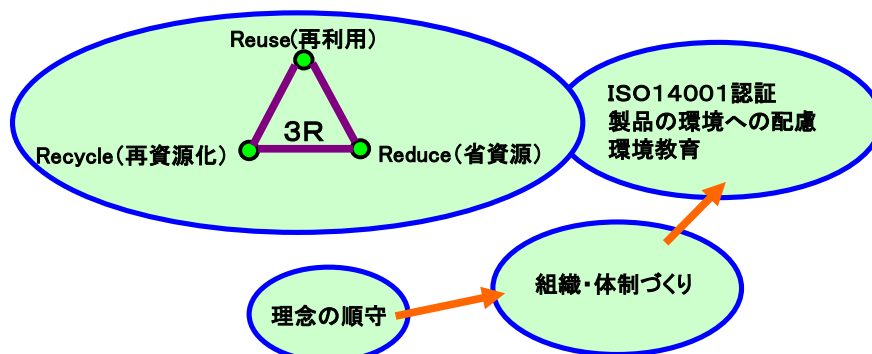


ハロゲンフリー同軸ケーブルシース押出

6. 3Rによる取組み活動・・・人と地球に喜ばれる企業を目指して

HARADAは、『地球環境のために何ができるか』を大きなテーマに、3Rに基づく環境負荷物質の低減や、ISO14001環境マネジメントシステムの認証取得など、循環型社会の実現に向けたさまざまなアプローチを行っています。

オフィスにおける省エネ・省資源・CO2削減活動



Recycle(再資源化)

- 1) 部品への材質表示による再資源化の推進
- 2) ゴミの分別廃棄によるリサイクルへの貢献
- 3) シュレッダー処理によるリサイクル率向上
- 4) パソコンリサイクルの実施

Reduce(削減)

- 1) プリンター複合機導入による紙使用量の削減
- 2) 電力消費量の削減
- 3) ゴミ廃棄量の削減
- 4) プリンター用トナー使用量の削減

Reuse(再利用)

- 1) オフィス事務用品の詰替えタイプへの切替
- 2) 輸送用不要梱包材料・プラスチックコンテナの再利用

7. 環境貢献活動

1) 環境教育

毎年度、社内ネットワークにより、役員、全社員、派遣社員に対し、前年度の環境貢献活動結果報告、並びに新年度環境貢献活動取組みの全社教育を行っております。

又、委託業者に対しては文書による情報開示を行なっています。定例開催の環境保全委員会議事録は全社配信を行い、環境保全活動情報を全社員に開示し取り組んでいます。



国内工場における環境教育実施風景会
毎年度開催

2) 活動実績の共有化

2020年以降の地球温暖化対策を定めているパリ協定による国内外でのCO2(二酸化炭素)削減計画に対する環境貢献活動として、国内2社でのCO2排出量削減に取り組んでいます。

3) 名刺版環境ポケットカードの携帯

全社員が共通情報である環境方針、並びに部門毎の活動テーマを記載した、名刺サイズの環境ポケットカードを携帯し、日頃より環境貢献活動を意識した取り組み活動を行っています。

4) 環境月間・ウォームビズ・サマールックキャンペーンの対応

- ・環境月間ポスター掲示
 - ・夏季: サマールックキャンペーン
 - ・冬季: ウォームビズ
- 等による活動の活性化、室温の適正化を維持し、CO2排出量の削減に貢献しています。



8. 2016年度 本社環境活動報告

本社での共通活動テーマである、CO2排出量削減に対する、部門別活動結果は以下の内容となります。1990年度CO2排出量に対し7%の削減を目標に、環境貢献活動に取り組んでおります。

部門名	16年度取組みテーマ	目標	結果(達成率)	評価	コメント
管理本部 内部監査室	ITツール・オフィス機器等の有効活用による紙の使用量削減	【年間削減目標】 紙削減枚数: 1,000枚 紙削減による 経費削減額: 約2,150円	累積削減枚数: 3,771枚 累積削減金額: 8,107円 削減目標枚数1,000枚に対し削減実績枚数3,771枚となり目標達成		既存設備の持ちうる機能を有効に使用し、業務効率の改善、並びに紙資源の削減を図る事が出来た
			達成率(100%)		
総合企画部	部門の業務全般に関するプリント方法変更によるプリンター用紙の使用量削減	16年度における紙の使用量を活動実施前と比較し10%削減する	年度目標使用枚数 91,938枚/年 実績使用枚数 72,015枚/年 目標値10%を上回り22%の削減となり目標を達成		部門内で業務全体の削減候補を決め、改善を図る事で確実な成果を得る事が出来た
			達成率(100%)		
OEM営業部 OEM開発部	PCディスプレイ輝度最適化による電力・CO2排出量削減	消費電力の削減 目標値: ▲5%	実施期間(6-3月) 累計電力削減量 164.4kWh 削減率: 5.9% CO2排出量 約86.3Kg-CO2 となり目標達成		輝度最適化の設定条件としては個人差も有るが、業務に支障をきたさない範囲での対応を行ない成果を得られた
			達成率(100%)		
製品開発部 事業管理室	測定機器類の取り扱い管理化による電力削減	測定機器の省電力モードのオン設定等を行い、電気料金を削減 目標削減料金: 95円/月	年度通期削減 目標金額1,140円 削減実績金額 1,157円 となり目標達成		日常使用している機器が備えている、調整可能な機能を有効に使用した活動の効果が得られた
			達成率(100%)		
事業統轄本部	印刷枚数を低減し、紙の使用量低減による森林伐採の抑制に貢献する	紙削減枚数: 530枚/月	16年度目標合計削減枚数5,170枚に対し、実績削減枚数は7,154枚となり目標を達成		報告資料内容検討による枚数削減、デポからの入在庫FAX情報の協力見直し、AS400出力印刷の見直しにより活動の効果が得られた
			達成率(100%)		

 ...目標達成

9. 投入量・排出量年度推移データ

国内2社共通取組みテーマ

京都議定書による1990年CO2排出量に対する7%削減を目標とする。

1990年CO2排出量 0.1451万t-CO2を基準とする。

* 目標見直し: 本年度より目標値を2012年比20%削減に変更し、活動を継続致します。

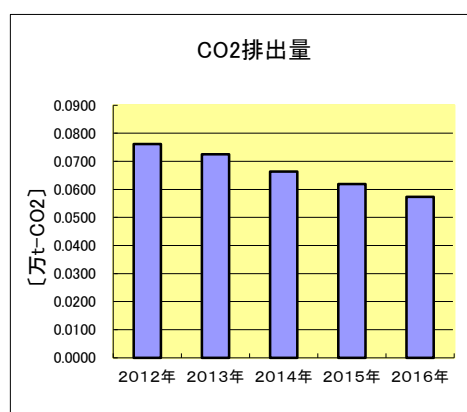
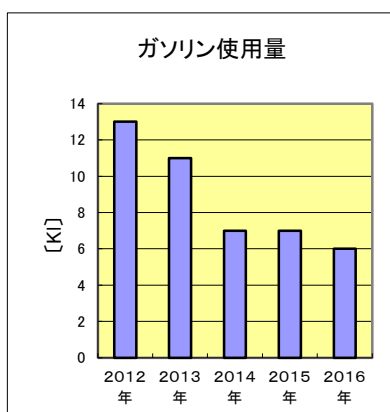
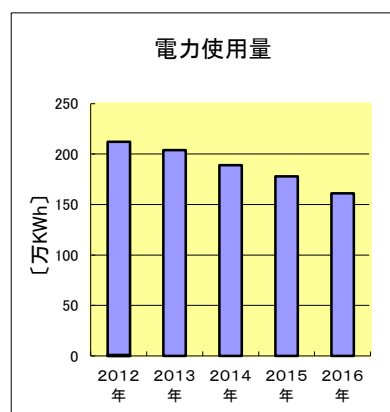
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	国内(本社・新潟事業所)トータル
CO2排出量 (万t-CO2)	0.0762	0.0725	0.0663	0.0619	0.0573	・月次投入量実績より算出評価
1990年度比	47.48%減	49.97%減	54.30%減	57.34%減	60.50%減	・7%以上の削減継続中

1) 投入量

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	取組み活動
電力使用量 (万KWh)	212	204	189	178	161	<ul style="list-style-type: none"> ・不要照明の消灯 ・自販機の照明OFF ・不稼働設備の電源OFF ・離席時のPC省電力モードへの切替え ・クールビズ、ウォームビズによる省エネ活動
ガソリン使用量 (KI)	13	11	7	7	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・社有車利用ルールへの順守 ・物流ルート見直しによる使用量削減
軽油使用量 (KI)	0.5	0.4	0.2	0.2	0.2	
灯油使用量 (KI)	7	2	1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房機器の適正温度設定 (夏季:28℃、冬季:20℃) ・不稼働区域での使用中止
ガス使用量 (Km ³)	29	32	30	26	29	

2) 排出量

排水量(万t)	1.9	0.5	0.4	0.4	0.3	・漏水確認による早期発見
一般ごみ(t)	5	4	5	5	5	・分別廃棄基準の見直し



3Rの対応

HARADAは循環型社会構築に求められる3R※への対応として、廃棄物の発生抑制とともに接着材をできるだけ使わない構造設計で分解のしやすさを追求した製品開発を目指します。

※3R: Reduce(使用材料の削減)、Reuse(部品等の再利用)、Recycle(資源の回収利用)

環境配慮型製品の開発

下記を重点に環境に配慮した開発を行います。
特にRecycle(再資源化)に力を入れてまいります。

部品への材質刻印表示化(Recycleの推進)



デジタルTV用アンテナケースの分解例

環境マネジメント

HARADAグループは環境方針に従い、環境貢献活動テーマの目標に取り上げ活動を行っております。日々の環境ISO14001の委員会活動に加え内部監査や外部の更新審査を受け、環境活動の継続的な見直し、改善を推進していきます。

環境負荷物質の検査体制

国内1工場、海外4工場に蛍光X線分析装置をいち早く導入しています。最新の各種法規制、お客様の閾値に対応したSOC検証を自社工場にて実施し、社内管理システムによる検査データ登録を行い、必要な時にデータを閲覧する事ができます。



エネルギー分散型蛍光X線分析装置
堀場製作所(株)製



蛍光X線分析装置
SII製 SEA6000VX

環境活動(本社)

部門 活動	管理本部 内部監査室	総合企画部	製品開発部 事業管理室 OEM開発部	事業統轄本部	OEM営業部
テーマ	環境法規制の変更・追加に確実に対応し新たな法規制の周知を行う	セキュリティ強化とコンプライアンス順守の実現	小型化、軽量化等、環境側面を考慮した開発推進	既存委託先の物流業者を切り替えし、物流品質を向上する	外部コミュニケーション顧客情報管理精度の向上
目標	定期的な法規変更確認の実施と法規制一覧への反映と部門内への周知による環境活動への啓蒙を図る	対象帳票を選定し、今年度中に1つ以上の紙帳票の電子化運用を目指す	基準書チェックシートに環境側面考慮のチェック項目を追加し開発業務における環境貢献の根拠明確化を徹底する	既存物流業者にて発生している物流不具合を業者切り替えにより無くす	顧客からの情報を確実に取り込み、社内展開・記録を残す

11. 環境推進責任者メッセージ(今後の環境貢献活動取組みの姿勢について)

当社はISO14001 2015への早期移行を行うと共に、環境規制(ELV指令・RoHS指令・REACH規則)を順守すると共に、環境に配慮した設計及び製販一体の活動としてCO2排出量の削減に取り組んでおり、様々な角度から今後も継続的に環境貢献活動を実施して行きます。